

**大腸癌研究会プロジェクト研究**  
**「炎症性腸疾患合併消化管癌のデータベース作成と臨床病理学的研究」**  
**第9回プロジェクトミーティング議事録**

日時：2024年1月25日(木) 11時30分～12時00分

会場：浜松町コンベンションホール 6F 大会議室 C および WEB のハイブリッド開催

委員長：石原聡一郎

出席者(敬省略、50音順)

・現地参加

味岡洋一(新潟大学)、石丸 啓(愛媛大学)、石山 泰寛(埼玉医科大学国際医療センター)、岩佐陽介(奈良県立医科大学)、岩本哲好(近畿大学)、上田和毅(近畿大学)、岡 志郎(広島大学)、尾崎公輔(がん研有明病院)、梶原由規(防衛医大)、川村純一郎(近畿大学)、小松更一(東京大学)、佐藤 雄(東邦大学医療センター佐倉病院)、島田能史(新潟大学)、下田将之(慈恵医大)、杉原健一(光仁会第一病院)、須藤 剛(山形県立中央病院)、田中信治(JA 尾道総合病院)、谷 公孝(東京女子医大)、問山裕二(三重大学)、永吉絹子(九州大学)、野口竜剛(がん研有明病院)、肥田侯矢(京都大学)、廣川高久(近畿大学)、廣瀬裕一(防衛医大)、藤本浩輔(奈良県立医科大学)、船越薫子(東京大学)、堀 義城(浦添総合病院)、松田圭二(同愛記念病院)、松橋延壽(岐阜大学)、松山貴俊(埼玉医科大学総合医療センター)、水内祐介(九州大学)、望月秀太郎(山形県立中央病院)

・Zoom 参加

池内浩基(兵庫医科大学)、池端 敦(岩手県立中央病院)、大北喜基(三重大学)、大沼忍(東北大学)、小形典之(昭和大学横浜市北部病院)、荻野崇之(大阪大学)、神山篤史(東北大学)、佐々木 慎(日本赤十字社医療センター)、志田 大(東京大学医科学研究所附属病院)、清島 亮(慶應大学)、関戸悠紀(大阪大学)、大東弘治(近畿大学)、田所裕規(東京医科歯科大学)、東 大二郎(福岡大学筑紫病院)、藤井佑介(大阪公立大学)、藤田覇留久(京都大学)、星野伸晃(京都大学)、前本篤男(札幌東徳洲会病院)、山上英樹(旭川医療センター)、山本 隆行(四日市羽津医療センター)、山本紀子(広島大学)、渡辺和宏(東北大学)

【審議事項】

① 後ろ向きデータベースの症例数の集積状況について石原より報告を行った。

UC：1249例(47施設)、CD：330例(39施設)

② 論文掲載状況について石原より報告を行った。

●主解析

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者：野口竜剛、石原聡一郎

**Clinical Features and Oncological Outcomes of Intestinal Cancers Associated with Ulcerative Colitis and Crohn's Disease**

Publish: J Gastroenterol. 2023 Jan;58(1):14-24

●副次解析 前回から新規に3つの論文が掲載され、掲載済みのものも含め報告した。

○施設名：慶應義塾大学

担当者：岡林剛史先生、清島亮先生

**The effect of biologics on the risk of advanced-stage IBD-associated intestinal cancer: A nationwide study.**

Publish: Am J Gastroenterol 2023; 118(7): 1248-1255

○施設名：三重大学大学院医学系研究科 消化管・小児外科学

担当者：山本晃先生、奥川喜永先生、大北喜基先生、問山裕二先生

**Oncological outcomes of Crohn's disease-associated cancers focusing on disease behavior**

Publish: Ann Gastroenterol Surg 2023; 7(4): 615-625

○施設名：京都大学医学部附属病院

担当者：星野伸晃先生、上野剛平先生、吉田真也先生、肥田侯矢先生

**Postoperative complications and prognosis based on type of surgery in ulcerative colitis patients with colorectal cancer: a multicenter observational study of data from the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum**

Publish: Ann Gastroenterol Surg 2023; 7(4): 626-636

○施設名：大阪大学 消化器外科

担当者：荻野崇之先生、関戸悠紀先生、水島恒和先生

**Crohn's disease associated anorectal cancer has a poor prognosis with high local recurrence: A Nationwide Japanese Study**

Publish: Am J Gastroenterol 2023 Apr, Online ahead of print

○施設名：九州大学大学院医学研究院臨床・腫瘍外科

担当者：水内祐介先生

**Prognostic impact of tumor location in stage II/III ulcerative colitis-associated colon cancer: Subgroup analysis of a nationwide multicenter retrospective study in Japan**

→Publish: Br J Surg. 2024 Jan 3;111(1):znad386

○施設名：兵庫医科大学 消化器外科学講座 炎症性腸疾患外科

担当者：内野基先生、池内浩紀先生

**Histological differentiation between sporadic and colitis-associated intestinal cancer in a large nationwide study: A propensity-score-matched analysis.**

→accept: J Gastroenterol Hepatol 2024 Jan, Online ahead of print

○施設名：三重大学大学院医学系研究科 消化管・小児外科学

担当者：大北喜基先生、問山裕二先生

**Possible poor prognosis in younger-onset Crohn's disease-associated anorectal cancer: a subanalysis of the Nationwide Japanese Study**

→accept: Ann Gastroenterol Surg 2024 Jan, Early View

③ 新規プロジェクトの検討：各施設の担当者より報告を行った。

○九州大学大学院医学研究院臨床・腫瘍外科：水内祐介先生

テーマ：Ulcerative colitis-associated cancer における術前検査による cT ステージの予後への影響

背景/目的：cT により郭清度(D2/D3)が異なる。

cT と pT の相違による予後への影響を明らかにする。

対象：646 例 (Stage IV、多発症例、Dysplasia のみ、pTis、姑息手術、欠損症例は除外)

過小評価群(cT<pT)、同等群(cT=pT)、過大評価群 (cT>pT) として分類。

pT 分類ごとに CSS、RFS を検討した。

結果：pT2 では過大評価群、過小評価群において同等群と比較して CSS、RFS が不良。

pT3/pT4a では過大評価群において過小評価群や同等群と比較して RFS が不良。

⇒質疑

石原：術前評価と術後評価で異なることが多いことは実感としてある。

過大評価で予後が悪いことは興味深い。

過大評価群では深達度以外での要素として抽出されるものはあるか

水内：時代背景の影響もあるかと考えている。腫瘍の大きさは影響しているかもしれない。

組織型、脈管侵襲では差はなかったが、他要素についても検討中である。

○九州大学大学院医学研究院臨床・腫瘍外科：永吉絹子先生

テーマ：Prognostic value of Surgical treatment in Elderly patients with ulcerative colitis-associated colorectal cancer; a Subanalysis of Nationwide Japanese Multicenter Stud

背景/目的：高齢者 UC は増加している。高齢者における UCAN の予後を明らかにする。

対象：1086 例 (年齢、性別、病理学的因子や予後情報の欠損症例、非切除症例は除外)

高齢者群 (65 歳以上) 248 例と非高齢者群 (65 歳未満) 838 例の 2 群に分け、○

S、RFSを検討した。

結果：RFSが高齢者群において良好(8.0% vs 13.1%)で、高齢者群では部分切除や術後補助化学療法がRFSのリスク因子として挙げられた。

Stage毎(Stage0-III)での検討ではRFSでは差がなく、OSではStage0では有意差あり。(高齢者群<非高齢者群)

部分切除と全摘術で比較すると、高齢者群ではOSに差が無かったが、全摘術においてRFSが良好で、非高齢者群ではOS、RFSいずれも全摘術で良好であった。

⇒質疑

石原：確認としてのコメントだが、東京大学 品川先生の40歳未満の若年に着目した解析と重複するかについては、今回の65歳以上の解析が表裏をなす結果ではなく、問題ないと考えている。

術式(部分切除/全摘術)に関する検討は慶應の清島先生らの検討と抵触するか。

清島：UCAN/Sporadicを主眼にしており、年齢を主として解析していないので、問題ないものとする。

永吉：ありがとうございました。

④ 進行中の副次解析について紹介した。

○施設名：東京女子医科大学

担当者：谷公孝先生、板橋道朗先生

テーマ：Colitic cancer 症例に対する腹腔鏡手術の有用性

○施設名：昭和大学横浜市北部病院消化器センター

担当者：小形典之先生、石田文生先生

テーマ：IBD 関連腫瘍に対する内視鏡治療の現状

○施設名：東海大学

担当者：山本聖一郎先生

テーマ：UC 癌化症例における病期期間による特徴の違いの解析

○施設名：帝京大学 外科

担当者：松田圭二先生

テーマ：潰瘍性大腸炎関連癌における術後補助化学療法の現状と成績を明らかにする

○施設名：東北労災病院 大腸肛門外科

担当者：高橋賢一先生

テーマ：クローン病関連小腸癌の臨床的特徴についての検討

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者：小松更一

テーマ：炎症性腸疾患合併/dysplasia における臨床病理学的特徴の時代的変遷に関する検討

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者名：品川貴秀

テーマ：潰瘍性大腸炎関連若年者大腸癌の臨床病理学的検討

○施設名：慶応義塾大学

担当者名：岡林剛史先生

テーマ：背景の大腸炎が UCAN の予後に与える影響について

○施設名：東京大学 腫瘍外科

担当者：小松更一

PSC 合併 UC 患者における UCAN の臨床病理学的特徴に関する研究

○施設名：慶応義塾大学

担当者名：清島 亮先生、岡林剛史先生

テーマ：IBD 関連大腸癌に対する大腸全摘術の長期予後への影響

⑤ 前向きデータベースについて、石原より集積状況について報告を行った。

データ集積状況：UC 201 例、CD 42 例 （資料作成時の集積数）

## ⑥ 今後の予定

副次解析は随時募集している。

前向きデータベースは継続していく。

プロジェクト研究としては 2024 年 7 月に終了→データベースと倫理の維持は炎症性腸疾患関連消化管癌診療ガイドライン委員会での継続を予定している。

2024 年 1 月 25 日

石原聡一郎

事務局：東京大学腫瘍外科

品川貴秀、野口竜剛、津島辰也、小松更一、船越薫子